

トルコギキョウ(花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人畜 毒 性	使用 時期 (日数)	使用 回数	炭疽 病	斑 点 病	灰 色 か び 病	菌 核 病	う ど こ 病	根 腐 病	立 枯 病 (フザリウム菌)	ア ザ ミ ウ マ 類	ア ブ ラ ム シ 類	コ ナ ジ ラ ミ 類	ハ モ グ リ バ エ 類	オ オ タ バ コ ガ	シ ロ イ チ モ ジ ヨ ト ウ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	ネ コ ブ セ ン チ ユ ウ
トップジンM水㊟	1		-	5		㊟		㊟											
ベンレート水㊟	1		*d	1							灌								
バレード20FL	7		*c	3		㊟			㊟										
アミスター20FL	11		*e	5		㊟													
ファンタジスタ顆水	11		*c	5		㊟	㊟												
メジャーFL	11		*a	3		㊟													
サプロール乳	3		*c	5		㊟			㊟										
スコア顆水	3		*e	6		㊟													
ポリオキシンA L溶	19		*c	8		㊟													
ジマンダイセン水	M3		*c	8	㊟														
ユニフォーム粒	4・11		*g	1	水					水									
マイコタール	-		*a	-								シ							
ジェイエース粒	1B		*a	5								㊟	㊟						
スミフェート粒	1B		*a	5								㊟	㊟						
アディオンFL	3A		-	6								ヒ							
スカウトFL	3A	劇	-	5								㊟	㊟						
テルスターFL	3A	劇	-	3								ヒ							
トレボン乳	3A		-	6														㊟	
マブリック水20	3A	劇	*a	2								㊟							
アクタラ顆溶	4A		*a	6								カ		㊟	㊟				
マトリックFL	18		*a	4														㊟	

㊟：チオファネートメチル含有剤 ㊟：ベノミル含有剤 ㊟を使用した場合には同じ作での
㊟は使用しないこと。その逆も同様（種子への処理および塗布処理を除く）。

*a:発生初期 *b:植付前 *c:発病初期 *d:定植前日

*e:発病前～発病初期 *f:定植前日～定植当日 *g:定植時

カ:ミカンキイロアザミウマ

シ:施設栽培でミカンキイロアザミウマに登録

ヒ:ヒラズハナアザミウマ

灌:セル成型育苗トレイ又はペーパーポットに灌注処理する。

水:水耕栽培を除く。

トルコギキョウ

トルコギキョウ (花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
炭疽病	生育期 (発病初期)	・次の薬剤を散布する。 ジマンダイセン水和剤 400倍	
立枯病(フザリウム菌)	定植前日	・次の薬剤を灌注処理する。 ベンレート水和剤⊙ # 1000倍	#セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60cm、使用土壌約4～5L)あたり0.5L。
苗立枯病 株腐病 根腐病	定植前	1. 圃場の排水に留意する。 2. 健全苗を用い、軟弱徒長した苗を定植しない。 3. 次の薬剤いずれかで土壌消毒する。 ガスタード微粒剤* バスアミド微粒剤* いずれも20～30kg/10a	株腐病はリゾクトニア菌、根腐病はピシウム菌による。 *苗立枯病、株腐病は花き類・観葉植物での登録
灰色かび病	生育期	・次の薬剤のいずれかを散布する。 ゲッター水和剤⊙●* 1000倍 フルピカフロアブル* 2000～3000倍 サンヨール(乳)* 500倍	●耐性菌を生じやすいので連用しない。 *花き類・観葉植物での登録
アザミウマ類	生育期	・次の薬剤のいずれかを散布する。 オルトラン粒剤(株元散布)* 3～6kg/10a スカウトフロアブル 2000倍 マブリック水和剤20 4000倍	*花き類・観葉植物での登録
シロイチモジヨトウ	生育期	1. 施設の側面及び妻面に防虫ネットを張り、成虫の侵入を防ぐ。 2. 次の薬剤を散布する。 ロムダンフロアブル* 1000倍	*花き類・観葉植物での登録
ハスモンヨトウ	生育期	1. 施設の側面及び妻面に防虫ネットを張り、成虫の侵入を防ぐ。 2. 次の薬剤を散布する。 トレボン乳剤 1000倍	
その他の病害虫		モザイク病、アブラムシ類、ネコブセンチュウ類	